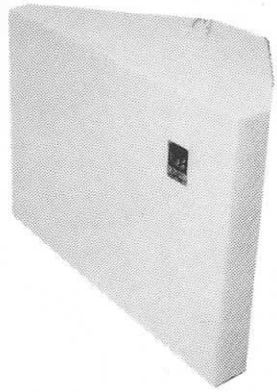
低域の吸音効果が抜群
東京防音の音場調整パネル

井上良治 Inoue Yoshiharu



「静けさとより良き音を！」．これが東京防音のコピーだとわかる人はかなりのオーディオマニア，もしくは同社のオーディオアクセサリーの愛用者である．オーディオに対する同社の接点は，インシュレーターや鉛シート，そして最近注目のオーディオルーム用の音響改善部材，音場調整用パネルなどである．今回はリニューアルされたアコースティック・コンディショナー・スタンドの魅力，実力をさぐるため同社を訪問した．

東京防音とは

東京防音は単にオーディオアクセサリーを開発しているだけのメーカーではない．ではどんな会社なのか．同社の生い立ちと業務内容を，設立者である現在の社長 奥居敏治氏に聞いた．

同社は昭和55年の3月に設立されており，今年がちょうど20周年ということになる．同社のメインビジネスは，防音工事，防音の材料販売，一部工務店の指導などであるが，ユーザーターゲットはプロではなくアマチュアである．

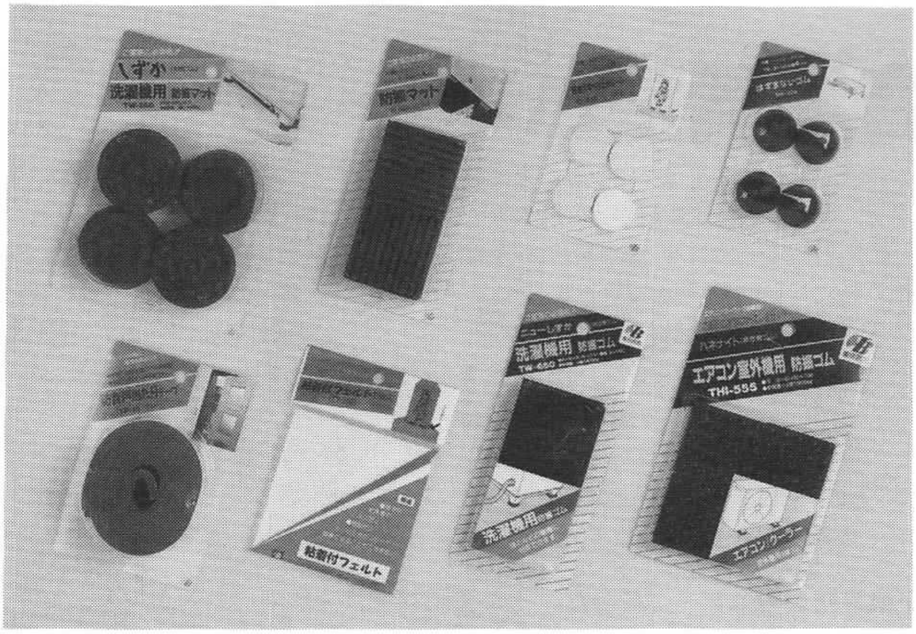
東京防音という社名は，会社の業務内容がひと目でわかるようにというのが最大のねらいだが，池袋に会社があったというのもひとつの理由である．ちなみに現在は，埼玉県の朝霞市に会社を移している．奥居氏が同社を設立するときに，防音関連の会社は20社くらいあったらしいが，ほとんどの会社が特定のビジネスしか行っていなかった．例えば無響室しか作らないとか，工場騒音しか扱わないとかいった具合だ．そこで同社では一般向けを対象とし，ピアノ室，オーディオルーム，マンションなどの防音対策などを手がけることになった．これでわかると思うが同社のオーディオアクセサリーは業務の一部であり，防音工事の専門メーカーなのである．

東京防音の製品

現在同社が扱っているのは，遮音材，吸音材，防振材，制振材の4分野．したがってこの分野に関するものは，同社でほとんどのものが揃う．

オーディオマニアおよびAVマニアをターゲットとしたアクセサリーには，ノーソレックスゴムを活用したインシュレーターやシート，ソルボセインを活用した防振マット，ブチルゴムや鉛シートの防振および制振テープ(**写真1**)，吸音材のミニソネックス，防磁シートや電磁波シールドテープ，そして音場調整用のアコースティック・コンディショナー・スタンドなどがある．また同社はカーオーディオマニア向けのアクセサリーも用意しており，その中でも注目を集めているのは，フロントドアパネルの制振作業が自らの手で行えるクォリティアップキットのSUK-1とSUK-2である．いずれも防振シートや吸音シート，制振鉛テープ，圧着用ローラーなどを組み合わせた内容．私も以前にこのキットを活用しているが，カーオーディオの音がまるで別物といえるくらいの大幅なクォリティアップが可能となった．これはお勧めである．

さらに同社では，部屋を傷付けず，部屋の中に小さな部屋を作ってしまう感じの組み立て式の防音室，



[写真1]　おなじみの防振マット，防振ゴムの製品群

ミラクル・カプセルなども扱っている(**写真2**)．

防音工事について

周囲を気にすることなく，好みの音量でステレオを楽しみたいと思っているマニアはたくさんいるはずだが，それができる環境を持っているマニアはけっこう少ない．それだけに防音工事に興味を持つマニアは多いはず．そこで，同社に防音工事について聞いてみた．

防音工事の施工手順としては，ユーザーから工事の依頼がくると，まずは対象となる部屋をチェック．騒音計，振動計，周波数分析などの機械を持ち込み，チェックしてくれるのだ．このチェックは原則的に無料である．ただし首都圏から遠い場所や必要以上に時間のかかる測定の場合は交通費や測定料などが発生する．その後，見積書および設計プランを提出し，それで良しとなれば工事契約を行い，施工して，引き渡すという流れとなる．気になるのはやはり工事のコスト．同社の場合，すべてがオーダーメイド，したがってケースバイケースでコストは異なってくる．そこをあえて聞いてみると，一つの目安が6畳のオーディオルームで300万～350万円とのことであった．

この300万～350万円というのは対象となる部屋を加工するのではなく，取り壊して作り直すためのコストである．ここまでの工事を行うと，500Hzの音漏れを35～40dBくらい抑え込むことが可能となる．

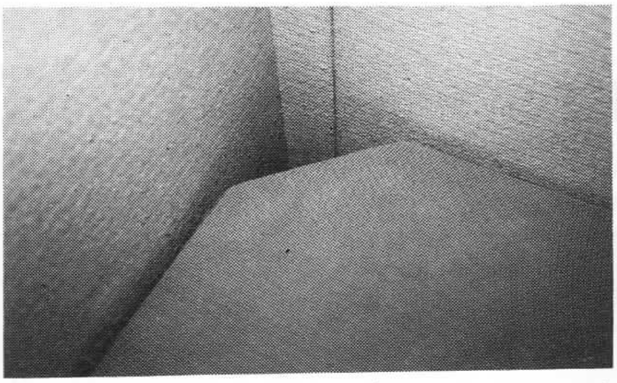


[写真2]　部屋の中に部屋を作ってしまう感じの組み立て式防音室「ミラクル・カプセル」．これならマンションの中でもピアノが弾ける

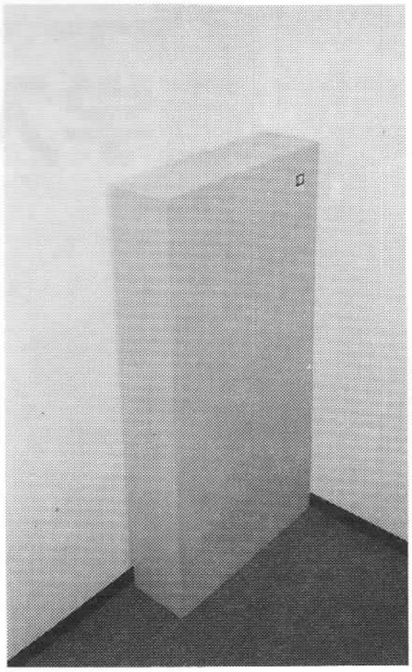
アンプに搭載されているミューティングスイッチは，ONにすると20dB減衰というものが多い．そうなると35～40dBの減衰はかなりのものと思えるはずだ．

音場調整パネル

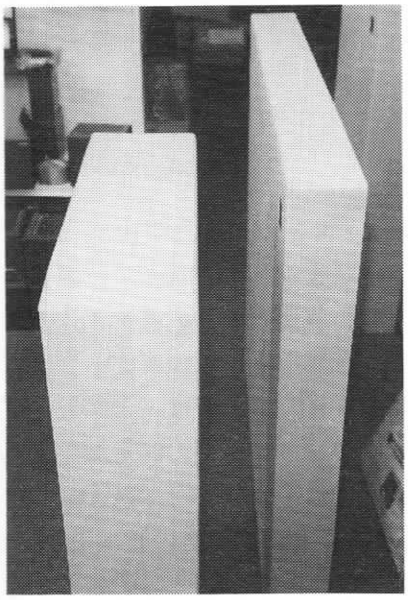
同社の場合，数多くの防音工事を行い，オーディオルーム，ピアノ室などを手がけてきた．それによりさまざまなノウハウが蓄積されたわけだが，そこから生まれたのがアコースティック・コンディショナー・スタンドなのである．つまり使用するグラス



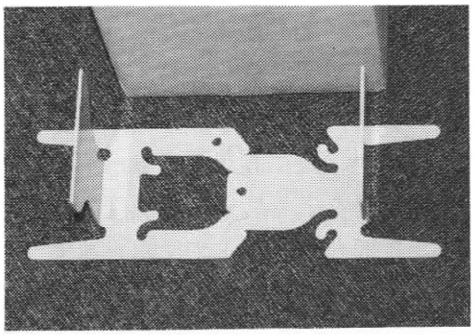
[写真10]　GAC-700の台形スタイルが，コーナーにセットしたときに空間を作り出す．これが低域の吸音率アップにつながる



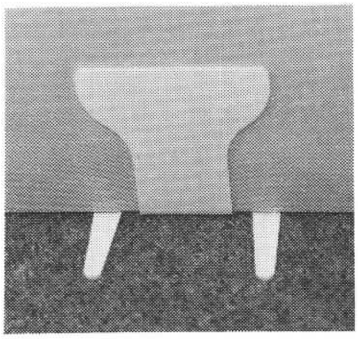
[写真11]　GAC-500のセット例だが，低域の吸音率を高めたいのなら，壁から5〜10cmくらい離してセットする



[写真12]　コーナーがビシッと出たGAC-500とGAC-600．枠は使用していない．立てたときの安定度が大きく向上した



[写真13]　組み合せ方を変えることで，15cm幅のGAC-500にも対応し，10cm幅のGAC-600にも対応する専用スタンド．これを活用すると専用スタンドの脚の分だけ自然と壁から離れる．つまり低域吸音率が高まる



[写真14]　GAC-600を専用スタンドに取り付けたようす

600を愛用している人がいるとすれば，壁からチョッピリ離してみるのが良いだろう．ワンランク上の効果が得られるかもしれない(**写真11**)．

リニューアルされ，コーナーがビシッと出たことから，立てたときの安定度も大きく向上しているが，同社ではGAC–500およびGAC–600に対応する専用スタンドをオプションとして開発している．間もなく発売されるはずだ(**写真12〜14**)．また壁掛け用の吸音パネルも検討中らしい．

アコースティック・コンディショナー・スタンドを初めて導入される人がいるとすれば，コーナー用のGAC–700にGAC–500もしくはGAC–600を組み合わせて使うというのが同社のお勧めである．

私も愛用者の一人だが，私のお勧めはGAC–500は2枚1組だから，これを左右のコーナーに1枚ずつセット．これにGAC–500もしくはGAC–600を組み合わせるというものだ．こちらの方がコスト面のメリットが大きいのである．

何はともあれ，オーディオルームの音場改善を考えている向きは，アコースティック・コンディショナー・スタンドに目を向けて見るべきだろう．強い味方になってくれるはずだ．

同社では，高密度グラスウールを活用したオーディオボード・スピーカースタンドなども開発しているという．ぜひオーディオマニアの夢を実現させてくれる，アコースティック・コンディショナー・スタンドのような価値あるアクセサリーを開発してもらいたいものである．